

i-feature

2014年5月5日、ビッグ・アイ アートプロジェクト 入選作品展「共振×響心」の東京会場であるBunkamura Box Galleryにて、デモンストレーション「三次元の思考」が開催されました。受賞者自身がその創作の様子を実演するというビッグ・アイとしても初めての試みでしたが、普段は見る機会のない創作の様子に足を止めて見入る人も多くみられました。今回は、アートプロジェクトでの受賞をきっかけに、さらなる飛躍をめざす崔廣修(チェ・クァンス)さんをご紹介します。

設計図のない悪魔

ビッグ・アイ アートプロジェクト 作品募集2013において、秋元雄史賞に輝いた崔廣修さん。彼の作品「心優しい悪魔」は、審査会場でもひととき異彩を放つ存在であり、「見ていて気持ち晴れる」(選者評)という高い評価を受けての受賞となりました。悪魔の姿でありながらも、見守っていてくれるような優しさを感じるせいか、展覧会場で作品を見たお客様からは、「この天使、いいね!」といった声もありました。

2014年5月5日、Bunkamura Box Galleryでのデモンストレーション(制作実演)において、崔さんが創ったものは、この「心優しい悪魔」をもとにした、ひとまわり小さい悪魔でした。

崔さんの創作における特徴の一つは、その過程において一切設計図を描かないことです。手のひらと指先で、その輪郭や存在を確かめるように「心優しい悪魔」にふれてから、頭の中でその像を繰り返し確認するような表情を浮かべつつ、材料となるワイヤーに手を伸ばします。作業が始まればその手に迷いはありません。忙しく手を動かしながらも、時折手を止めては輪郭やバランスを確認し、また手を動かします。繰り返し繰り返し姿勢を変えながら、目で、指先で、じっくりと確かめながら進められる創作の様子は、何者かと対話をしているようにも見えます。決められた手順や方法論があるのかは、周りで見ている人には全く分かりませんが、時間がたつごとに、不思議に均整のとれた形に仕上がっていきます。

(次頁へつづく)



崔 廣修(チェ・クァンス)
大阪芸術大学工芸学科金属工芸コース在籍。幼稚園から高校まで朝鮮学校に学び、高校時代には美術部に所属。その卒業制作となる「心優しい悪魔」が、ビッグ・アイアートプロジェクト 作品募集2013にて秋元雄史賞に選出される。

東京会場(Bunkamura Box Gallery)でのデモンストレーション「三次元の思考」

あ
ら
ゆる
壁
を
飛
び
越
え
て
行
く
日
を



「世界を魅了する作品を創る！」

「こういうのがほしい」

「こういう生き物がいたら」

表現する喜びへの目覚め

崔さんの立体造形におけるユニークな感覚は、幼少の頃にはすでに表れていたと、母親である趙玉姬（チョウ・オッキ）さんは語ります。発達障がいで言葉に遅れのあった崔さんは、自分からは人とコミュニケーションをとろうとせず、ものを創ることで自分の世界に入りこんでしまうことの多い子どもでした。おにぎりを含むアルミホイルの切れ端で何かを創っている崔さん。何を創っているのかと思えば、怪獣だったり、ドラゴンだったり、翼の生えた生き物だったり…。そのあまりにリアルな造形に、趙さんは崔さんのユニークな感性や視点、崔さんならではの世界観とものづくりの才があると感じ取っていたといいます。一方で崔さん自身にとっては自らの心を落ち着けるための行為であり、人に見せることを意識したものではありませんでした。

崔さんがワイヤーアートに出会ったのは、高校1年のこと。中学ではバスケットボールに熱中し、創作することは少なくなっていた崔さんですが、高校では両親のすすめで美術部に入部することを決めました。初めてワイヤーで創った作品は「ワニ」。部の活動を通して美術展に出品するという課題ができたことで、崔さんにも「人に見てもらう作品を創る」という意識がようやく働きはじめました。

崔さんにとって初めての評価の場。そこで耳にしたのは、親でも友だちでもない、作品を見た初めて会う人々からの「すごいね!」という言葉でした。ただの

“おだて”ではない、作品に対する評価の声。自分の世界をアート作品として表現する喜びに目覚めた瞬間は、その時ではなかったかと趙さんは言います。

気づいてほしいこと

趙さんには、一つの願いがありました。それは、崔さんに「自分にしかない特別な贈り物がある」ということに気づいてほしいという思いでした。発達障がいという見た目には分かりにくい障がいのために、周りから誤解されることが多く、周囲とのギャップに悩み、どうしてもできないことばかりに目を向けてしまいがちな崔さんに、「できないこともあるが、それ以上にすばらしいものを持っている。それを上手に生かすことができれば、障がいもできなかったことも気にならなくなる」ということに気づいてほしかったのです。

ただ、周りがいくら言葉で言い聞かせたところで、崔さん自身が気づかなければ意味がありません。そこで趙さんが大切にしたいことは、感性を磨ける環境や自分の良いところに気づける環境を整えること。

そして、本人自身が気づくまで、それを信じて支え続けることだったと言います。子どもの未来に何があるのか、どんな可能性があるのかは、誰にもわかりません。しかし、本人の力を信じ励まし続けてきたこと、そして他者からの評価を受けることで表現する喜びに気づくことができたことが、今回の評価につながったのかもしれないと趙さんは言います。

見えない翼

午前11時に始まり、午後7時30分まで続いたデモンストレーションでしたが、結局最後まで作り上げることはできず、時間切れとなってしまいました。その悪魔には、角も翼もありません。崔さん自身は、最後まで完成させたかったと悔やんでいる様子でしたが、未完成でありながらも、作品としての凄みを放ち始めている悪魔の様子には、崔さんと重なるところがあるようにも感じられます。

ビッグ・アイ アートプロジェクトの存在を通して、公募というチャレンジと評価の場があるということを知ったという崔さんと趙さん。これからは、障がい者を対象とした公募ではなく、一般の公募へのチャレンジも考えていると言います。障がいがあるということを隠すわけではありません。障がいの有無に関係なく、作品そのものの力で人に何かを訴えかける作品を創りたいというのが、崔さん自身の希望なのです。

障がいも言葉も国も民族も、あらゆる壁を飛び越えて人とつながり合える作品を創りたい。そんな思いが見えない翼となって、崔さんの背中でいつか風を受けて羽ばたく時がくるのを待っているのかもしれない。



「心優しい悪魔」崔 廣修



Friend Message

ビッグ・アイ アートプロジェクトでは、障がい者によるアート作品を社会に発信する中で、世界の国々と障がいの有無や言葉を越えた交流を進めています。
ここでは、アメリカのコロラド州で障がい者アートを紹介するギャラリーを運営しているデーモンさんより届いたメッセージをご紹介します。

「いいね!」から「必要だ!」に

VSAコロラド/アクセスギャラリーにおいて私たちが行っている活動についてお話しすると、みなさん「いいね!」と言って下さいます。確かにその通り、いいのです。でも私は「**いいなんてくらいものじゃない。どうしても必要な活動なんだ!**」と言い返したくなります。
障がいのある若者たちは、就職や大学進学など高校卒業後の進路選択において、明らかに不利な立場に置かれています。実際に**アメリカでは、障がい者の70%近くが失業しています。そう、70%もです!** 私たちが共に活動している10代の若者たちの大半は、貧困ライン以下の暮らしをしているのです。

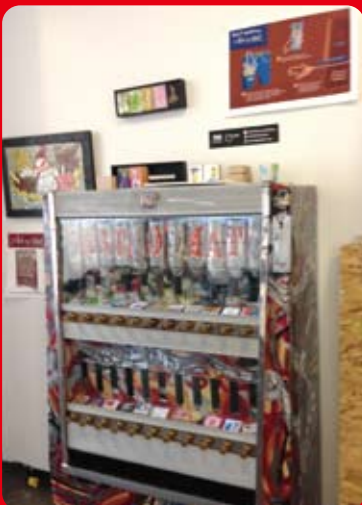
2年前のこと、私たちは自分たちの活動に対する見方を少し変えました。「いいね!」から「必要だ!」へと移行したのです。なぜなら、障がいのある若者たちが直面している**最大の問題は、障がいそのものではなく、経済的に成功するチャンスに近づけないこと**だと気づいたからです。当時、私たちは展示会を開く際、制作を外部事業者に委託していましたが、今ではそれをやめ、自分たちで展示会をプロデュースするようになりました。また、それまでは障がいのある新進あるいはプロのアーティストなど、個々のアーティストを中心に展示していたのですが、アーティストどうしの共同作業や、より前衛的なアプローチを重視してギャラリーの展示会を開催することにしました。

私たちは、高校卒業をひかえた障がいのある10代の若者たちのグループと共に新たな取り組みを始めました。1960年代から70年代のポップアートに刺激された作品を創り、“Pop Art With a Purpose”(目的を持つポップアート)という展示会を創り上げたのです。結果として、これが経済的な成功に近づく糸口となりました。**展示した絵画の80%が売れ、展示会出品者は平等にその利益を受け取りました。私たちは「これだ!」と思いました。**

その後2年間、同じ方針でギャラリーでの展示会を何度も開きました。プロの芸術家の指導を受けつつ、チームワークを大切にしながら、共同作業を行ったのです。そして**成功するためにみんなが責任を持つ**ということにも重点を置きました。

この展示会を開く前、アートは障がいのある若者たちに就職への道をひらく手段だと私たちは考えていました。ですから、遅刻しないよう、身なりを整えるよう言い聞かせました。履歴書や面接の練習にも多くの時間を割きました。しかし、そうした努力にもかかわらず、実際のところ、大半の若者たちは依然として仕事に就けず、経済的に厳しい状況のままでした。それでも私たちは、**共同でアートを創り出し、チームワークを大切にすれば誰もが成功するという考えを強く持ち続けました。**

オフィスには楽しいアートがいっぱいです!



ホームページもぜひご覧ください! <http://accessgallery.org/>



Damon McLeese VSA Colorado/Access Gallery
デーモン・マクリース

コロラド州デンバーにあるギャラリー街、サンタフェドライブに店舗を構えるVSAコロラド/アクセスギャラリーにてディレクターを務める。ギャラリーにはアトリエもあり、多くのアーティストが共同で創作に取り組んでいる。



デスクまわりもアートでいっぱい!

この方針を進めて行く中で、新たな発見がありました。私たちはアート作品を創ってギャラリーで販売するという点では成功しつつありましたが、経済的な成功のチャンスを得るという問題はまだ解決していませんでした。しかし、10代の若者たちのグループが初めて小切手を受け取った時、興味深いことが起こりました。彼らが誇らしい気持ちになったことは言うまでもありませんが、それ以上に、希望に通じる何かを感じとったようなのです。

彼らに必要なのはチャンスです。ですから、もし彼らが既存の仕事に就くための手助けができないのなら、私たちが仕事を創り出せば良いのではないかと考えました。

まったくの偶然でしたが、自分たちのギャラリーに展示するためのものではないアート作品を創る機会があり、そのおかげで、企業、事業所、組織向けにも作品を創ることができると分かりました。会社の販促用品、会社が大切にしている言葉、あるいは会社の建物自体や製品を使って、私たちの方針に基づき、物語のあるユニークなアート作品を創りだすことができます。また、企業が私たちに作品を創ることを依頼してくれたら、若いアーティストたちに賃金を支払うこともできます。現時点ではフルタイムで雇用することはできませんが、障がいのある若者たちにパートタイムでもちゃんとした仕事を提供し、**70%もの失業率をいくらかでも減らすことができれば**と願っています。

ねっ!いいでしょ!?

障がい者のアート活動を中心とした取り組みには、さまざまな形があるように、障がいのある人、ない人をつなぐ取り組みにも、さまざまな形があります。気づいていないだけで、つながるきっかけは、すぐそばにあるかもしれませんよ。

Information

可能性の扉の向こうには新しい世界が待っている。 ビッグ・アイ アートプロジェクト 作品募集2014 応募受付期間がせまる!!

国外募集 7月1日(火)～7月31日(木)

国内募集 9月1日(月)～9月28日(日)

国内外を問わず、障がい者によるアート作品を公募する「作品募集2014」。7月からはじまる国外募集に続き、国内募集の受付期間も近づいてきました。

今回は、審査員賞、ビッグ・アイ賞のほかに入賞、佳作、あわせて100作品を選出予定。ますますチャンスが広がりました! 応募方法については、「募集要項」をご確認ください。「募集要項」は、ビッグ・アイホームページからもダウンロードいただけます。郵送をご希望の方は、下記までご連絡ください。



©FRILAME MONGER・BARON UEDA

問合せ ビッグ・アイ「アートプロジェクト」係
TEL072-290-0962 FAX072-290-0972
Eメール museum@big-i.jp ホームページ <http://big-i.jp/>

ビッグ・アイ 検索



Facebookページもご覧ください!
<https://www.facebook.com/bigartproject>

Campaign

レストランぐらん・じゅエリアコラボ第2弾 《ハーベストの丘》と大胆コラボ! 暑い夏を吹っ飛ばせ!ビアホールフェアー

ハーベストの丘自家製ソーセージ、ベーコンや地ビールをビッグ・アイ内レストランぐらん・じゅの多彩なビアホールメニューと共に堪能ください。

※写真はイメージ

期 間 7月1日(火)～8月31日(日)

時 間 17:00～21:00(20:30ラストオーダー)

MENU

しゃぶしゃぶ豚肉のサラダ胡麻ソース
イタリアハム等盛合わせ
スモークサーモン
サイコロステーキ
ウインナー&ポテトフライ 他多数



同時開催 ビアパーティープラン

ビッグ・アイ研修室を利用したの暑気払い向けパーティープランです。
御1名様4,000円より。詳しくは左記までお問い合わせください。

問合せ ビッグ・アイ フロント
TEL072-290-0900 FAX072-290-0920
Eメール front@big-i.jp

Present!

プレゼントクイズ

今号の特集記事からの出題です

Q ビッグ・アイ アートプロジェクト2013にて、秋元雄史賞に輝いた崔廣修さんの作品のタイトルは何でしょう?

心優しい ○ ○

入選作品集(図録)
『BiG-i Art Collection 2013』を
10名様にプレゼント!!

10名様



■応募方法

クイズの答えと下記の必要事項をご記入の上、ハガキ、ファックス、Eメールのいずれかで応募ください。

①氏名(ふりがな) ②郵便番号 ③住所 ④電話番号
⑤本紙へのご感想やご希望、ご質問など

正解者の中から抽選で10名様に景品を発送させていただきます。当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。※読者のみなさまからいただいたご意見を「i-co」紙面でご紹介する場合があります。予めご了承ください。

■応募締切

2014年7月31日(木)消印有効

■応募先

〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
ビッグ・アイ「i-coプレゼント」係
FAX 072-290-0972
Eメール i-co@big-i.jp

個人情報の取り扱いについて…ご応募の際にお預かりする個人情報については、個人情報保護関係法令を遵守し、本紙の運営・実施の目的以外には使用いたしません。



編集・発行 国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)広報
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972

発行日 2014年6月25日

EVENT CALENDAR

情報保障等のアイコン表示



7 July

26日[土]13:00～15:00

日英逐次通訳

国際セミナー「リーガン・リントン あなたが輝く9のコトバ」

- ▶講師:リーガン・リントン(米国/女優)
- ▶場所:研修室▶無料
- ▶申込締切:6月30日(月)
- ▶定員:100名
- ▶問合せ セミナー係 072-290-0962



27日[日]13:00～16:00

アートセミナー「大切な作品の届け方 プロに学ぼう!美術品輸送」

- ▶講師:日本通運(株)美術品輸送専門スタッフ
- ▶場所:研修室▶無料▶申込締切:6月29日(日)▶定員:30名
- ▶問合せ アートセミナー係 072-290-0962

8 August

もっと
アートを楽しもう!

9日[土] 13:00～ 10日[日] 15:30

アートキャンプ「おえかきワークショップ いろあそびワンダー」

- ▶場所:ホワイエほか
- ▶料金:7,000円/人 ※子ども(3歳～小学生)6,500円/人
- ▶申込締切:7月4日(金)▶定員:20名
- ▶問合せ アートキャンプ係 072-290-0962

16日[土] 14:00～15:30

アートセミナー「完成度を高める!写真の仕上げ方」

- ▶講師:永野一晃(写真家)▶場所:研修室
- ▶無料▶申込締切:7月21日(月・祝)
- ▶定員:50名
- ▶問合せ アートセミナー係 072-290-0962



27日[水]～9月2日[火] 各日10:00～20:00

※8月29・30日は21:00まで、9月2日は18:00まで

ビッグ・アイ アートプロジェクト 入選作品展 「共振×響心 Lineをこえる思考空間」

- ▶場所:阪急うめだ本店
9階アートステージ
- ▶無料
- ▶問合せ
アートプロジェクト係
072-290-0962



作品の販売もあります 写真は東京会場の様子

10 October

5日[日] 14:00～15:30

アートセミナー「障がい者アートの変遷とこれからの展望」

- ▶講師:西村陽平(造形作家)
- ▶場所:研修室▶無料
- ▶申込締切:9月7日(日)▶定員:70名
- ▶問合せ アートセミナー係 072-290-0962



11日[土]・12日[日]・13日[月・祝]

各日13:00～16:30(予定)

大阪府障がい者芸術・文化フェスタ2014

- ▶出演:障がい者アーティスト33組(予定)
- ▶場所:多目的ホール▶無料
- ▶定員:1,200名
- ▶問合せ フェスタ係 072-290-0962



各事業の情報保障の詳細についてはお問い合わせいただくか、
ビッグ・アイ ホームページにてご確認ください。